

Gunma Prefectural Cancer Center



## 群馬県立がんセンターだより

第18号

発行 平成23年4月 群馬県立がんセンター

## 理 念

私たちは、患者さんの意思を尊重するとともに地域と連携し、高度のがん医療を提供します。

## 基本方針

- 1.患者さんの権利と意思を尊重します。
- 2.地域と連携し、適切ながん医療を提供します。
- 3.教育と研修を充実し、優れた医療人を育成します。

## 震災に寄せて

東北地方太平洋沖地震の報道に触れるたび、被災地の悲惨な状況に深く心を痛めています。家族や親戚、友人、知人、住み慣れた家や土地、街並み、そして、生活の糧から思い出のよすがまで。傷あとだけを残して、かけがえのないものばかりを奪われた被災地の姿は、私たちが何気なく送っている日々の生活が、いかに有り難いものであるかということ、決して忘れてならないと物語っているように思えてなりません。

がれきの山と化し、あるいは家の土台だけになってしまった被災地は、終戦直後の日本の姿と二重写しに見える時があります。あの時代も多くの方が還らず多くの都市が焼き払われたのです。しかし、私たち日本人は、そこから立ち上がり、分裂も内乱も起こさず、力を合わせ、営々として今日の日本を築き上げたのです。これからの震災復興にしても、同じ日本人にそれができないはずはありません。



このたびの被災者と支援者の姿を見て、お互いが助け合うこと、力を合わせることで、苦難に立ち向かうためには必要不可欠であり、健全な社会を構成する上での基本であることを今更ながら思い知らされました。これからの日本は、国中のあらゆるレベルで、いかに助け合い、いかに力を合わせていけるかが、震災復興だけでなく日本が再生するための鍵になるのだということを実感しました。

さて、県立がんセンターは、平成23年度に創立40周年を迎えます。

本院は、がん診療連携の拠点病院であり、地域の医療機関との連携を何よりも重視しております。いわば、地域の医療機関と助け合い、力を合わせながら、患者さんのためにより高度ながん医療を提供することを使命としています。そのため、病院施設をリニューアルし、新たにスタートした際には、病院理念を改定し、「私たちは、患者さんの意思を尊重するとともに地域と連携し、高度のがん医療を提供します。」と、地域との連携に関する文言を新たに盛り込み、以来、地域の期待に応えられる病院を目指してがんばっております。

平成20年度と21年度には、病院本体の建設費用等の影響もあり、巨額の赤字を計上することになりましたが、病院改革に努めるとともに地域の医療機関の皆さんにも支えられ、外来患者数や入院患者数も徐々に増え続けており、経営指数も好転してきております。

本院の話はやや唐突に聞こえたかもしれません。しかし、このたびのような国を揺るがす大災害から立ち直るためには、被災地への直接的な支援だけでは足りません。私たち一人ひとりが、今、目の前にある、自分の成すべき事を成していく、そういった地道な努力も、一日も早い復興のためには欠かせないことと信じます。

私たちががんセンターは、日々の医療にあっても、被災した人たち、そして被災地で今も困難な活動に従事している人たちとともにありたいと願っております。

院長 福田 敬 宏

## 群馬大学で重粒子線治療が始まりました

平成22年3月から群馬大学で重粒子線治療が開始されましたので、その特徴と適応についてお知らせします。がん治療に用いる放射線には、X線、ガンマ線、電子線、陽子線、重粒子線などがあります。群馬県立がんセンターでは、X線、ガンマ線、電子線を用いた治療を行っています。今回、群馬大学に設置された重粒子線治療装置は、炭素の原子核をシンクロトロンと呼ばれる直径約20mの円形の加速管の中を何万回も周回させ、光速の70%の速さにしてから人体に照射します。医療用の重粒子線装置は日本では3か所、世界でも7か所にしかありません。大学病院に設置されているのはドイツのハイデルブルグ大学と群馬大学の2か所だけです。建設費は国費の他に、群馬県や県内の市町村からの補助金で賄われました。

放射線治療部長  
玉木 義雄



重粒子線はX線と比べて、「線量分布が優れている」、「同じ線量であれば治療効果が2~3倍高い」という特徴を持っています。そのため、X線治療と比べて、「短期間で治療が終了する」、「X線抵抗性腫瘍にも効果がある」という利点があります。

重粒子線治療が必要な患者さんは、全ての放射線治療患者の約10%と見積もられています。現在のところ、群馬大学で治療の対象としている疾患は、前立腺がん（前立腺に限局しているもの）、肺がん（1期で手術適応がないもの）、肝細胞がん（肝内の同一部位に限局しているもの）、頭頸部腫瘍（腺がん、肉腫、悪性黒色腫など）、直腸がんの術後骨盤内再発、X線抵抗性の骨軟部腫瘍です。これまでに70名以上の患者さんに治療が行われ、安全に治療ができています。今後は適応を拡大して年間600名を目標としています。群馬県立がんセンターの各診療科でも重粒子線治療の相談ができます。

重粒子線治療は先進医療として認可されているため、治療回数や期間に関わらず314万円の費用がかかります。群馬県では、県民を対象に治療費の利子補給制度を設けています。

最後に、東北地方太平洋沖地震の状況が報道されるなかでこの原稿を書いています。福島第一原発の事故が震災からの復興に大きな障害となっており、放射線治療の安全性について疑問を持たれる方もいるかと思えます。X線や重粒子線治療装置は停電になれば放射線が出ない点では安全な装置です。また、数十グレイの放射線を人体の一部に投与しますが、正常組織はできるだけ避けて治療するので副作用も容認できるレベルに止めることができます。放射線治療はがん治療にとって欠かせない治療法の一つですので、安心して頂けるように努めます。

## 「群馬県がん対策推進条例」とがんセンター

去年の暮れ（平成22年12月24日）、「群馬県がん対策推進条例」（以下「がん条例」といいます）が、施行されました。全国で11番目となる条例です。条例というのは、法律の地方版のようなものですから、群馬県が条例という手段を用いて、がん対策に積極的に取り組む宣言をしたことは、がん治療に携わる医療関係者にとって力強い追い風となります。

がん条例の特徴の第一は、強い意志を表す前文を付けたことにあります。「がんに対して正面から向き合い、互いに支え合いながら、がんに負けないという強い信念を持って」という前文の表現は、患者さんのみならず、広くがん対策に関わる人々へのエールとなったのではないのでしょうか。

特徴の第二は、がん登録の推進を図るための条文（11条）が整備されたということです。がん対策の第一歩は、精密ながん登録から始まります。地域がん登録は、がん患者の罹患、診断、治療、予後その他の情報を登録することであるとの正確な定義付けをして、予後調査の実施など地域がん登録の精度を向上させるための施策を講ずることとなりました。群馬県が、がん対策のフロントランナーとなり得る条件が整備されたといっただいでしょう。

がんセンターにとって、がん条例はどのような意味を持つのでしょうか。がん診療連携拠点病院として、がん医療を充実させるため、医師等の医療従事者の確保と機能の強化が求められます（7条、8条）。また、緩和ケアの充実が定められたこと（9条）は、がんセンターの今後の病院運営に大きな影響があります。大澤知事は、県議会の本会議で「県立がんセンターでの緩和ケア体制の充実などにより、“がんに強いぐんま”づくりを推進します」を明言しました（平成23年2月16日）。多くの県民の期待を担って、がんセンターでは緩和ケア体制の充実に向け取り組んでまいります。

このように、がん条例は、群馬県のがん政策の根幹を定めたものとして大きな意義があります。がんセンターは県内唯一のがん専門病院として、がん条例の趣旨を実現するため、努力をしておりますので、ご支援ご協力をお願いいたします。

## 診療科紹介

## 形成外科

形成外科とは、からだに生じた欠損や変形を、あらゆる技術をもちいて、機能だけではなく形もより正常に、より美しくして、みなさまがよりよく生きていくための手助けをする科です。

治療対象とするのは、あたまからつま先までの全身です。当科の診療内容をおおまかに紹介します。

## (1) 再建外科

がんを取ったあとに生じた欠損を、できるだけ元どおりにつくり直して、患者さんの社会復帰を助ける分野を再建外科といいます。おもに頭頸部再建と乳房再建をおこなっています。

たとえば頭頸部について、のどのガン（下咽頭癌）の手術では、のどと一緒に食べ物の通り道（頸部食道）を取る場合があります。そのままでは手術後、口からご飯が食べられなくなります。そのような手術では、頸部食道がなくなってしまったところに自分の腸の一部（遊離空腸）を移植し頸部食道を再建します。

## (2) 皮膚腫瘍切除

良性・悪性にかかわらず、皮膚にできたできもの（腫瘍）の治療をします。特に顔面にあるできものは、取った後の変形や傷跡が気になりますが、変形や傷跡を最小限とするように工夫して治療します。また、顔以外でも、大きかったりして取りにくいようなものでも、再建外科のノウハウを駆使し、手術後の支障が最小限となるように手術をおこないます。

## (3) リンパ浮腫の手術（リンパ管静脈吻合術）

がんの手術や、そのほかの原因で腕や足のむくみが生じるリンパ浮腫は、マッサージ等が有効ですが、当科では、新たな有効な治療法として広まってきたリンパ管静脈吻合術に力を入れています。

リンパ管静脈吻合は、腕や足に数カ所 2 cm 弱の切開を加えて、0.5 mm ほどのリンパ管と静脈をつないでリンパの流れをバイパスさせる方法で、局所麻酔下でも可能な体への負担が少ない手術です。

当科では、効率的にリンパ管を見つけることができるフォトダイナミックアイ（PDE）という機械を新しく導入し、より効果的に治療をおこなう体制が整いました。

## (4) その他

そのほか、顔面神経麻痺の治療やキズアトの治療等、治療内容は多岐にわたります。気になることがありましたらお気軽にご相談ください。

## 形成外科医師

部長 廣瀬 太郎  
 医長 堀切 将



## 総合相談支援センター

今回は、在宅療養に関する相談の際にご案内しているサービス内容やそのサービスを利用するための連携についてご紹介します。

- ・ 身体の清潔ケア、がんの痛みなどの症状緩和、胃ろうや点滴などによる栄養の支援

連携先：訪問看護ステーション、往診医。

- ・ 家事支援（調理、買い物、掃除など）

連携先：介護保険を利用しケアマネージャー。また食事のサービスに関しては社会福祉協議会、NPO、民間の配食サービス業者も紹介。

- ・ 福祉用具（電動ベッド、車椅子、ポータブルトイレ）

連携先：介護保険を利用しケアマネージャー。介護保険を利用できない場合は社会福祉協議会や一般レンタル会社を紹介。（吸引・吸入器等医療機器は一般レンタル）

- ・ 通院支援

連携先：介護保険を利用しケアマネージャー。介護保険を利用できない場合はNPOや民間の介護タクシー会社を紹介。

以上のようなサービスを利用することによって、患者さんやご家族が自宅で安心して療養生活が送れるように支援しています。更に詳細な各種サービスの内容や事業者、利用料金に関することについては、総合相談支援センターにご相談ください。

また総合相談支援センターでは上記以外のがんに関する様々な悩みや困りごとの相談をお受けしています。患者さんやご家族だけで苦しまないでください。相談員と一緒に考え、それぞれの解決方法を見つけていきましょう。



# 外来診療のご案内 (外来担当医一覧表)

平成23年4月1日～

診療科名		月	火	水	木	金	
第一外来	内科	消化器	野川 秀之		野川 秀之	保坂 尚志	
		血液	五十嵐忠彦	五十嵐忠彦 入沢 寛之	村山佳予子	村山佳予子 村田 直哉	五十嵐忠彦
		呼吸器	湊 浩一 (午後/禁煙外来)	湊 浩一		風間 俊文	
	外科	消化器	福田 敬宏	福田 敬宏	尾嶋 仁 中村 哲之 佐野 彰彦 宗田 真	尾嶋 仁 赤尾 敬彦 深井 康幸 佐野 彰彦 宗田 真	福田 敬宏 尾嶋 仁 深井 康幸 宗田 真
		乳腺	柳田 康弘 藤澤 知巳 平方 智子 宮本 健志	柳田 康弘 藤澤 知巳 平方 智子 宮本 健志	乳腺科医師 (新来患者のみ)	乳腺科医師 (新来患者のみ)	
		呼吸器			藤田 敦 中里 宣正		藤田 敦
		形成	形成外科医師				廣瀬 太郎 (ストマ外来)
第二外来	婦人科	平川 隆史 伊吹 友二	平川 隆史 伊吹 友二			鹿沼 達哉 婦人科医師	
	歯科口腔外科	山根 正之 名生 邦彦		山根 正之 名生 邦彦		山根 正之 名生 邦彦	
	頭頸科	鈴木 政美 工藤 毅 (午前/再診)		鈴木 政美 工藤 毅 (午前/再診・午後新患)		鈴木 政美 工藤 毅 (午前/再診・午後新患)	
	麻酔科	高橋 利文			猿木 信裕		
	泌尿器科	清水 信明 蓮見 勝	清水 信明 新井 誠二		蓮見 勝 (午前) 新井 誠二 (午前)	清水 信明	
		泌尿器科医師 (午後/新患のみ)	泌尿器科医師 (午後/新患のみ)			(ストマ外来)	
			緩和ケア外来*	*当面、内部の患者のみが対象です。			
放射線科	放射線	玉木 義雄 岡本 雅彦	玉木 義雄 岡本 雅彦	玉木 義雄 岡本 雅彦	玉木 義雄 岡本 雅彦	玉木 義雄 岡本 雅彦	

## 病院ボランティア募集

当センターでは、ボランティアの暖かい手助けにより、患者さんが心の安らぎを得られるような環境作りができればと考えています。ボランティア活動に興味をお持ちの方は、ご応募ください。

■活動内容  
■活動時間

外来での案内・補助  
平日(土・日、祝祭日を除く)の  
8:30~12:00で、都合の良い時間

■お申し込み・問い合わせ先

総務課 内線4114



## 診察予約 (初診、再診ともに予約制です。)

### ●初診紹介予約制について

当センターは「完全紹介予約制」です。初めて受診される方はあらかじめ電話で診療日時を予約をしていただき、診療当日は必ず主治医の紹介状(診療情報提供書)をお持ちください。また、再来の方も予約制となっておりますので、事前に予約をお願いいたします。

### ●がん検診について

当センターでは、がんの検診(一次検診)は行っておりません。市町村の検診や人間ドックをご利用ください。検診で異常を指摘された方の診療は行ってまいります。

**予約電話 0276-38-0762**

- 受付時間: 午前9時から午後5時(休診日を除く)
- 電話予約は診察を希望する日の1か月前から前日の午後1時まで

※休診日 土・日曜日、祝日、年末年始

**面会時間 午後0時30分~午後7時30分**

## 群馬県立がんセンター

〒373-8550 太田市高林西町617-1

TEL 0276-38-0771 (代)

FAX 0276-38-0614

URL <http://www.gunma-cc.jp>

